# 横須賀愛光園

特別養護老人ホーム横須賀愛光園、デイサービスセンター、西第二地域包括支援センター
せいれい訪問看護ステーション横須賀、せいれいヘルパーステーション横須賀
聖隷巡回ヘルパーぐるり横須賀、せいれいケアプランセンター横須賀

【特別養護老人ホーム】

2014 年度は、サービス提供面では専門性の向上、予防的リスク対応の徹底、認知症対応力の強化、次世代リーダー育成や職種・階層の相互理解と他職種連携、良質な職場風土の醸成に努めた。また、安全・安心な施設づくりでは、事故・感染・苦情などのリスク対応の向上、『定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業』における在宅サービスとの機能連携を通じ、隙間のないサービスの提供を充実させた。また、設備・備品の計画的整備・更新のために中長期修繕計画を作成した。

2015 年度は、継続と成長を主眼に、内部研修の充実や積極的な参加・自主的な学習や資格取得による専門性の向上を軸とした人財育成を継続するとともに、職員相互や職場連携を深める中で就労意欲を高め、組織の一体感をより強固なものとしていく。

サービス提供面では、介護・看護・栄養・相談等機能の適切な発揮により、利用者一人ひとりの生活の質を維持・向上させる。また、事故・感染・苦情の要因分析を深め、予防的なリスク対応力を向上させる。安全・安心な施設づくりでは、入所機能と在宅サービス機能の連携を更に深め、横須賀地区におけるサービス基盤を強化し、地域住民が安心して必要なサービスを利用し、日常生活を充実させることができるよう努める。また、より実践的な防災訓練を通じ、職員・利用者の防災意識や災害対応力向上を目指す。

社会情勢の変化や介護保険制度の改正の対応はもとより、社会福祉事業の特性を活かし、地域とのつながりを強く意識し、利用者の生活しやすい環境と職員の働きやすい環境づくりに注力した組織運営を行う。

【施設理念】　『安心して、明るく楽しく生きる』

【経営方針】　1．専門性の高い人財育成と活力のある職場風土を醸成する
2．利用者ニーズを把握し、それを実現できるように努める
3．安全で安心できるサービス提供に努める
4．地域との結びつきを大切にする

【事業・運営計画】

1．良質なサービス提供のための人財育成と組織づくりを行う
（ア）「法人理念」「施設理念」を理解し、「事業計画」達成のための行動を全職員で示す
（イ）やりがいがあり、安心して働くことができる職場風土を醸成する
（ウ）一人ひとりが主体的に事業活動へ参画するとともに、部署間の連携を徹底する
（エ）専門性向上のために資格取得を支援し、積極的な研修参加や自主的な学習を推奨する

2．安全・安心なサービスを提供する

（ア）科学的根拠に基づくサービスを提供するために、アセスメント力を向上させる

（イ）行為の自立ではなく、決定の自立につながる支援を行う

（ウ）認知症・精神疾患の理解を深めることで、要介護度の重度化に対応する

（エ）事故・苦情・感染対策などの発生要因を的確に捉え、迅速且つ適切な対応を図る

（オ）施設立地の特性に応じた防災対策と、実践的訓練を通じ対応力向上を図る

3．安定した経営を行う

（ア）利用者満足度を向上させ、利用率向上を図る

（イ）健康管理・事故予防と迅速な新規受入を徹底し、空床期間の低減に努める

（ウ）省エネルギー活動を通じたコスト意識の醸成と、メリハリのある経費節減を徹底する

（エ）計画的な設備・備品の更新を図る

4．地域ネットワークの一員として活動する

（ア）在宅事業との連携を強化し、地域ネットワークづくりに積極的に関与する

（イ）地域活動への積極的な参加や、継続性のある地域美化・エコロジー活動を実践する

（ウ）ボランティア・実習生などに対し、社会活動実践の場を積極的に提供する

【数値指標】

| | 特養入所 | | 短期入所 |
|---|---|---|---|
| | 従来型 | ユニット型 | |
| 利用者定員 | 64名 | 40名 | 16名 |
| 利用者延べ数 | 22,629名 | 14,193名 | 5,134名 |
| 一日平均利用者数 | 61.8名 | 38.8名 | 14.0名 |
| 稼働率（%） | 96.7% | | 87.7% |
| 稼動日数（延べ） | 366日 | | 366日 |
| 単価（1人1日当り） | 11,409円 | 13,971円 | 10,958円 |
| サービス活動収益 | 457,209千円 | | 56,425千円 |
| 職員数（常勤換算） | 65.6名 | | 10.9名 |

| | 通所介護 | 地域包括支援センター | 配食サービス | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| 利用者定員 | 40名 | — | — | — |
| 利用者延べ数 | 7,982名 | — | 2,000名 | — |
| 一日平均利用者数 | 26名 | — | 10.0名 | — |
| 稼働率（%） | 65.0% | — | — | — |
| 稼動日数（延べ） | 307日 | — | 200日 | — |
| 単価（1人1日当り） | 8,098円 | — | 550円 | — |
| サービス活動収益 | 65,441千円 | 27,594千円 | (911千円) | 606,669千円 |
| 職員数（常勤換算） | 9.6名 | 4.0名 | — | |

【在宅事業】

2014 年度は、やりがいのある職場環境づくり、地域で選ばれるサービス提供、定期巡回随時対応型訪問介護看護サービス開始と併せ地区の一体感を高めることに取り組んだ。

2015 年度は、介護報酬のマイナス改定が予定され、地域においてはサービス事業者の増加、高齢化率の上昇による働き手の減少と、サービス提供に一層の効率化が求められる。その中において、利用者が安心して自宅で生活することができる支援を行うために、各事業の連携を強化するとともに、横須賀愛光園の施設機能との有機的な連携を行う。また、安定した経営が良質なサービスを提供することにつながることから、喫緊の課題である人材の確保に努め、職員が就労を継続でき、やりがいを持つことができる職場環境を構築する。聖隷福祉事業団だからこそ成し得るサービスを展開し、地域で選ばれるサービスを提供できるよう取り組んでいく。

【事業理念】

福祉サービスを利用される方が望む生き方、住まい方の権利を重んじ、住み慣れた地域で自立して生活ができるように支援していく

【経営方針】

1．職員の質を高め、良質で肌理細かなサービスを提供する
2．人材の確保と働きやすい職場づくりを行う
3．他の医療・介護事業所との連携を深め、地域の一員として活動する
4．健全な経営に基づいた事業の継続

【事業・運営計画】

1．訪問看護事業（せいれい訪問看護ステーション横須賀）

（ア）職員の質を高め、アセスメントの能力を向上させる。

①ケースカンファレンスを充実させ、より良いプラン作成につなげる

②看護ラダーの実施を通じ、看護技術を向上させる

（イ）健全経営を維持する

①利用者確保のために、積極的に居宅介護支援事業所・病院との連携を深める

②機能強化型訪問看護管理療養費Ⅰ取得の検討

③業務時間管理の充実により、業務効率を向上させる

（ウ）防災対策を推進する

①マニュアルに基づく訓練を年２回実施し、対応力を高める

（エ）事業活動を通じ地域貢献をする

①地域貢献委員会を立ち上げ、積極的に地域活動に参画する

2．訪問介護事業（せいれいヘルパーステーション横須賀）

（ア）人材を確保し円滑な業務につなげる

①利用希望に応えるために、人材確保に努める

②働きやすい職場環境を整え、離職予防に努める

（イ）訪問形態・確認作業の見直しにより業務効率化を図る

①提供表確認・スケジュール調整の方法を変更・簡略化する

（ウ）職員の質を向上させ、安心して利用できる事業所となる

①登録ヘルパーに対し評価表を用い、自己目標の設定と定期評価を行う

②介護ラダーを通じ質の評価をし、職員が自信を持って業務遂行ができるようにする

3．定期巡回随時対応型訪問介護看護事業（聖隷巡回ヘルパーぐるり横須賀）

（ア）人材を確保し、効率的なサービス提供を目指す

①職員が安心して働くために、業務手順書を整備する

②地域別に訪問ルートを再構築し、効率的な訪問を目指す

（イ）新たな利用者確保のために、居宅介護支援事業所や病院との連携を充実させる

4．居宅介護支援事業（せいれいケアプランセンター横須賀）

（ア）安定した経営を継続する

①特定事業所加算Ⅱ以上の加算を取得することで、収益を高める

②職員を安定的に確保するとともに、認定調査の委託を積極的に受託する

（イ）質の向上を図る

①職員を他事業所へ講師として派遣し、新たな経験を積む

②相談支援地区別研修に積極的に参加する

【数値指標】

1．訪問看護事業（訪問看護ステーション）

| 平均利用者数 | 月訪問件数 | 年訪問件数 | 単価(円) | サービス活動収益 |
|---|---|---|---|---|
| 135 名 | 779 件 | 9,350 件 | 10,600 円 | 101,169 千円 |

2．訪問介護事業（ヘルパーステーション）

| 介護給付 | | | 予防給付 | | 単価(円) | | サービス活動収益 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 平　均<br>利用者数 | 月　間<br>訪問件数 | 年　間<br>訪問件数 | 月間<br>利用者 | 年間<br>利用者 | 介護<br>(回) | 予防(月) | |
| 98 名 | 973 件 | 11,678 件 | 29 名 | 347 名 | 3,868 円 | 15,320 円 | 69,724 千円 |

3．定期巡回随時対応型訪問介護看護事業

| 介護給付 | | 単価(円) | サービス活動収益 |
|---|---|---|---|
| 月間利用者数 | 年間利用者数 | 介護　(月) | |
| 15 名 | 179 名 | 129,628 円 | 11,238 千円 |

4．居宅介護支援事業（ケアプランセンター）

| 年間請求件数 | | 平均単価(円) | | 訪問調査<br>年間件数 | 訪問調査<br>単価(円) | サービス活動収益 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 介護 | 予防 | 介護 | 予防 | | | |
| 3,029 件 | 96 件 | 15,000 円 | 4,000 円 | 180 件 | 4,470 円 | 46,623 千円 |

# せいれい訪問看護ステーション油壷

【事業・運営計画】

1．地域包括ケアシステム実施に向け、認知症の理解を深める

（ア）全職員が認知症サポーター研修に参加し理解を深める

2．職員の確保と働きやすい環境をつくる

（ア）継続して訪問車輌に募集広告を掲載することで、職員採用に努める

（イ）職場内の物品の整理整頓を推進する

3．職員の知識・技能の向上を図る

（ア）定期的なカンファレンスの実施

（イ）利用者ニーズに沿った看護を提供する

（ウ）積極的な研修参加と、伝達講習の実施

（エ）接遇・マナーの向上と、ヒヤリハットを共有し、サービスの質を高める

（オ）マニュアルを整備し、全職員が同様の質で対応できるようにする

4．行政機関を含め、地域との連携を充実させる

（ア）行政主催の会議、病院で実施される講演会や研修に積極的に参加する

（イ）行政・病院・他事業所と連携を深め、顔の見える関係づくりを行う

5．運営状況の分析を共有する

（ア）収支、利用者状況等を分析し、全職員で共有する

6．環境活動を積極的に行う

（ア）エコキャップ活動に参加する

（イ）地域美化活動を行う

（ウ）業務用・自家用車に限らず、エコドライブを実施する

【数値指標】

| 平均利用者数 | 月訪問件数 | 年訪問件数 | 単価(円) | サービス活動収益(千円) |
|---|---|---|---|---|
| 76.5名 | 333.7件 | 4,004件 | 10,090円 | 40,402千円 |

# 浦安市高洲高齢者福祉施設及び
# 浦安市猫実高齢者デイサービスセンター

浦安市特別養護老人ホーム・短期入所生活介護
浦安市ケアハウス
浦安市高洲高齢者デイサービスセンター
浦安市猫実高齢者デイサービスセンター
浦安市高洲在宅介護支援センター

2015年度は、介護保険改正により浦安市特別養護老人ホームの入所においては、要介護3以上の方に限定される。そのような中で、重介護を必要とする入居者の増加に伴い介護職員の医療的知識や技術の向上を図り、看護職員等との連携を強化していく。また、要介護3以下の方であっても浦安市との連携により、入所の必要性のある方については入所検討を進めていく。

在宅においては、地域包括ケアシステムを見据え在宅医療機関との連携や地域の拠点として、利用者を取り巻く社会資源を防災マップに落とし込むことに着手していく。通所介護においても、認知症・重度要介護者への在宅生活継続の支援となるサービス提供がさらに求められてくる。当事業所においても、事業所機能を充分に活用し利用者へのサービス提供を行っていく。

また、防災体制の確立に向けても2014年度に引き続き取り組みを進める。

【施設理念】
“私たちは、地域（市民）とともに高齢者福祉に貢献する”

【運営方針】
1．私たちは、一人ひとりを知りその人らしい生活が続けられるよう支援します。
2．私たちは、ご利用者・ご家族（関わりのある方々）の思いを理解し、実現に向けて共に支援します。
3．私たちは、その人らしい最期の時をご家族（関わりのある方々）と共に支援します。
4．私たちは、職員一人ひとりが専門性を高め、人として成長するために常に研鑽します。
5．私たちは、一人ひとりが地域の社会資源として自覚し役割を果たします。

【事業・運営計画】
1．個別ケアの充実
（ア）　ＩＣＦの視点に基づくケアプランの作成
（イ）　予防・予後予測に基づくサービス提供
（ウ）　事故・苦情分析に基づく再発防止策の検討
（エ）　居室担当制の役割の遂行

2．職員教育の充実

（ア） 新人育成スケジュールの明確化と教育方法の確立

（イ） 目標参画とラダーの連動

（ウ） 資格取得への取り組み

3．地域連携の拠点としての取り組み

（ア） 地域の介護力アップへの取り組み

（イ） 地域防災マップの作成に取り組む

（ウ） 在宅医療機関との連携

4．施設機能の重点化

（ア） 重度介護・認知症を中心としたサービス提供の在り方の推進

（イ） 在宅生活継続の支援となるサービス提供

（ウ） 心身機能・活動の維持向上及び社会参加の促進

5．防災体制の確立

（ア） 現実に即した防災訓練の実施とマニュアルの作成

（イ） 施設マニュアルと職場マニュアルの連動

（ウ） 福祉避難所としてのマニュアル整備

| | 特 養 | 短 期 | ケア<br>ハウス | 高 洲<br>デイ | 猫 実<br>デイ | 在宅支援<br>センター | 総合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 利用者定員 | 100 名 | 50 名 | 50 名 | 20 名 | 20 名 | ― | 240 名 |
| 利用者延数 | 36, 234 名 | 16, 470 名 | 17, 934 名 | 5, 236 名 | 5, 544 名 | ― | |
| 一日平均利用者数 | 99. 0 名 | 45. 0 名 | 49. 0 名 | 17. 0 名 | 18. 0 名 | ― | |
| 稼働率（%） | 99% | 90% | 98% | 85% | 90% | ― | |
| 稼働日数（延べ） | 366 日 | 366 日 | 366 日 | 308 日 | 308 日 | ― | |
| 単価（一人一日当り） | ― | ― | ― | ― | ― | ― | |
| 総収入（千円） | 499, 078<br>千円 | 216, 187<br>千円 | 95, 864<br>千円 | 41, 037<br>千円 | 52, 089<br>千円 | 29, 283<br>千円 | 933, 538<br>千円 |
| 職員数（常勤換算） | 64. 65 名 | 25. 85 名 | 5. 8 名 | 8. 0 名 | 8. 9 名 | 4. 8 名 | 118. 00 名 |

# 介護老人福祉施設　浦安愛光園

浦安愛光園は、浦安市で2番目にできた特別養護老人ホームであり、ユニットケアの理念に基づき、入居者・家族・職員にとっての意義を考えながら施設運営に取り組んできた。2015年度は開設10年目を迎え、入居者の重度化とそれによる多様なニーズへの対応が求められることは必然である。また、介護保険制度改正により特別養護老人ホームの入居基準が原則要介護3以上に限定されたことで、中重度の要介護者を支える施設としての機能を更に高めていく必要がある。そのためには、今まで取り組んできた「看取り期の対応」「医療ニーズ」「認知症ケア」をより深め充実させることで終の棲家としての役割を果たしていく。

経営課題としては、人材の確保・育成が引き続き重点課題であり、採用・育成・専門職のスキル習得といったキャリアアップのシステムを各職種のテクニカルラダーやキャリア段位制度を活用し、施設内で構築する。

2014年度取り組んできた、空床期間や入院日数の短縮については多職種が連携することで、一定の成果を上げているが、厳しい状況は続いており稼働率向上に引き続き取り組んでいく。

【施設理念】

私たちは、ご利用者の“暮らし”“つながり”“その人らしさ”を大切にします

【経営方針】

1．それまで大切にしてきた“暮らし”が続けられるよう支援します
2．家族、友人、地域、社会との“つながり”が保てるよう支援します
3．一人ひとりの意思・人格を尊重し、“その人らしさ”が実現できるよう支援します

【事業・運営計画】

1. ケアプランに基づいた生活支援の実践
   （ア） アセスメント力の向上・的確なニーズを把握し、プラン（計画）どおりサービスの提供（実践）を行う
   （イ） 24時間シートを活用し、個別ケアの徹底に努める
   （ウ） 家族の想いをプランに反映し、役割と目的をもった関わりを共有する

2. 安心・安全・快適な生活
   （ア） 健康管理・予防ケアの重要性を理解し多職種が連携し早期発見・早期対応ができる
   （イ） 委員会を中心に災害・感染・事故のリスク管理を徹底する
   （ウ） 自立支援の考えに基づいた機能訓練の実施
3. 施設理念に基づいた教育方針と人材育成の定着
   （ア） 入居者の高齢化や重度化、認知症ケア、看取り介護といった多様化するニーズに対

応するため、研修体制を充実させる

（イ） 職種毎のラダーを活用し、階層別のキャリアアップと人材の定着を図る

（ウ） 接遇・マナー向上への取り組みを継続する

4. 地域における高齢者福祉サービスの拠点として地域住民の期待に応える

（ア） 地域で展開できる福祉活動を企画する

（イ） 地域のイベント企画に住民と一緒に参加し、地域に貢献する

（ウ） ボランティア、看護・介護実習、職場体験等を受け入れ、地域交流を促進するとともに社会との関わりを継続する

（エ） 福祉避難所としての体制を整える

5. 経営改善の継続

（ア） 特別養護老人ホームの待機者ニーズと社会資源の有効利用といった視点から、多職種が連携し、空床期間の短縮化を図り稼働率の向上を目指す

（イ） 適正な人員配置の検討と計画的な購入・修繕を行い、効率的な施設運営を行う

【数値指標】

| | 浦安愛光園 |
|---|---|
| 利用定員 | 70名 |
| 利用者延べ数 | 24,884名 |
| 一日平均利用者数 | 68.2名 |
| 稼動率（%） | 97.4% |
| 稼動日数（延べ） | 366日 |
| 単価（1人1日当り） | 13,218円 |
| サービス活動収益（千円） | 329,141千円 |
| 職員数（常勤換算） | 44.6名 |

# 介護老人保健施設　浦安ベテルホーム

2015年度、浦安ベテルホームは介護保険法改訂に伴い、通所・入所・ショートステイなどの運営に関して、在宅復帰機能支援施設としての役割を強化・拡大する。重度者の受け入れや認知症者のケアに重点を置き、他職種協働によるサービスの質の向上を目指す。

【施設理念】

私たちは、ご利用者の“暮らし”“つながり”“その人らしさ”を大切にします。

【経営方針】

1. それまで大切にしてきた“暮らし”が続けられるよう支援します。
2. 家族、友人、地域、社会との“つながり”が保てるよう支援します。
3. 一人ひとりの意思・人格を尊重し、“その人らしさ”が実現できるよう支援します。

【事業・運営計画】

1．利用者と家族のＱＯＬに則した支援の幅を拡大する

（ア）ライフスタイル（利用者と家族）を知り、多彩な在宅支援手法で寄り添う

（イ）各部署・職種の役割を明確にし、入所目的に見合った関わりを行う

（ウ）利用者個々にあったＱＯＬ（住まう場所・看取りを含め）に向き合い、在宅復帰パスの有効活用

①ケアマネージャー会議・判定会議（入所・通所・ショートなど）・継続判定・サービス担当者会議など

②生活機能を高め、在宅復帰の可能性を拡大するため、ＡＤＬ・ＩＡＤＬ評価の可視化

2.　専門職としてのスキルを磨き、やりがいや誇りを共有できる

（ア）教育プログラムの再構築と実践

①各専門職（看護・介護・相談員・機能訓練士など）のテクニカルラダーを活用し、ＯＪＴにより、相互の成長を分かち合い、ワンランク上のレベルを達成する

②高齢者の理解、認知症ケアが向上する

（イ）全職員が利用者の健康維持、体調変化など健康マネジメントができる

（ウ）担当制の定着により、利用者から頼りにされる存在になる

（エ）自己の職業観を課内・全体会・研修・学会（参加・発表）などで、豊かに表現できる

（オ）専門学校・職場体験などの受け入れを拡大することで、自己成長及び就業時の選択肢となる

3.　入所・通所における憩いの充実

（ア）生活レクリエーション（日常・誕生会など）・四季行事等のサービス充実により、利用者の満足感が高まる

（イ）行事の参加率、満足度調査の回収率増加（対象者の拡大を含め）

（ウ）家族との団らん（絆）を支援

①食べる楽しみを増やし、行事食・外食レクレーションを定期的に行う（レストラン業者との提携）

②退所前後訪問・外泊・外出を支援（介護講座など）

4. 運営の安定化

（ア）多職種協働によるサービスの強みを発揮し、新規利用者・リピーターの獲得

①医療機関との連携強化（迅速な入所対応など）

②季節便り、季刊誌・HP・地域講演など、広報活動を充実・拡大

③新規利用者（入所・通所）が継続して施設・在宅サービスを利用できる流れの定着

（イ）各種加算取得の拡大

①ユニット：稼働率・回転率の維持向上、在宅復帰加算の継続、ショートステイのベッドコントロール及び重度化加算対象者の拡大

②通所リハビリテーション：要支援利用者数増・重度化加算対象者の拡大

③従来型：在宅復帰支援・認知症ケア加算（Ⅲa 以上 50%）取得

④リハビリテーション：短期集中リハビリテーション加算維持（平均 15 名/日）・認知症短期集中リハビリテーション加算取得

⑤経口維持加算対象者増（2 名→4 名）

⑥看取り加算：家族に看取られる体制づくり（居宅での看取り支援）

⑦外泊時加算（退所前・長期入所者への促進）・緊急時治療加算

5. 地域社会への貢献

（ア）イベントの企画・参加により、地域ネットワークを広げる

（イ）障害者雇用の促進

（ウ）無料又は低額介護老人保健施設利用事業の継続

**【数値指標】**

| | ﾍﾞﾃﾙﾎｰﾑ入所 | ﾍﾞﾃﾙﾎｰﾑ短期 | 通所ﾘﾊﾋﾞﾘ | 総計 |
|---|---|---|---|---|
| 利　用　定　員 | 100 名 | 入所に含む | 40 名 | 140 名 |
| 利用者延べ数 | 32,850 名 | 730 名 | 8,903 名 | 69,825 名 |
| 一日平均利用者数 | 90 名 | 2 名 | 29 名 | — |
| 稼　動　率 | 92% | | 72.5% | — |
| 稼動日数（延べ） | 366 日 | 366 日 | 308 日 | — |
| 単価（1 人 1 日当り） | 13,303 円 | | 11,380 円 | — |
| サービス活動収益（千円） | 419,312 | | 101,662 | 520,974 |
| 職員数（常勤換算） | 61.0 名 | | 14.5 名 | 75.5 名 |

# 聖隷ケアプランセンター浦安

【事業・運営計画】

1．利用者の満足度を高める支援

（ア） 利用者・家族の想いに寄り添った介護支援計画書（第１表）、目標やサービス内容に個別性を取り込んだ介護支援計画書（第２表）を作成し、質の高いサービスを提供する。

2．サービス事業所との連携強化

（ア） サービス事業所との多職種連携を強化し、認知症や寝たきりになっても住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう支援する。

（イ） 介護老人保健施設に併設された事業所という特徴や強みを積極的に外部にＰＲし、在宅復帰ケースの支援を充実させる。

3．地域との関わりを深める

（ア） 地域ケア会議に参加し、地域支援ネットワークの構築、地域課題の把握に努める。

（イ） 浦安市で開催される認知症メモリーウォークや認知症予防フェアに参加する。

【数値目標】

| 一日平均利用者数 | 年間利用者数 | 稼働日数 | 単価（１人１日当り） | サービス活動収益 | 職員数（常勤換算） |
|---|---|---|---|---|---|
| － | 808 名 | 366 日 | 11,032 円 | 9,169 千円 | 2.1 名 |

# 浦安せいれいクリニック

【事業・運営計画】

1．安定した診療体制を継続する

2．利用者・入居者への初期診療の役割を担う

3．感染症の拡大防止に貢献する

【数値目標】

| 一日平均利用者数 | 年間利用者数 | 稼働日数 | 単価（１人１日当り） | サービス活動収益 | 職員数（常勤換算） |
|---|---|---|---|---|---|
| 5.6 名 | 1,367 名 | 246 日 | 3,000 円 | 6,030 千円 | 3.3 名 |

# 聖隷カーネーションホーム

特別養護老人ホーム聖隷カーネーションホーム
聖隷カーネーションホーム短期入所生活介護
聖隷カーネーションホームデイサービスセンター
聖隷在宅介護支援センター淡路
聖隷ケアプランセンター淡路

淡路市の総人口は1990年以降減少を続けている一方、高齢化率は年々増加を続けている状況から、今後、この地域における医療・福祉連携強化への期待値の増加や地域包括ケアに関する様々な新しいニーズの発生は自明の理である。淡路市から移譲を受け2年目を向かえる聖隷カーネーションホームはこの変革の時期において、利用者や家族のみならず地域の方々が真に望むサービスを的確に把握・創出・実践し続けていくことを第一義とする。その為に、先の1年間で培った経験を踏まえ内部能力の向上を図ることはもとより、バイタリティに富んだ展開を視野に入れ、聖隷福祉事業団内外を問わず各種機関との連携強化を図っていくことで、自施設の強みを構築し、地域における医療・福祉力の向上を図れるように基幹施設としての役割を担っていく。

【施設理念】

人と地域と未来のために『ともに咲き続ける』ことのできる事業所となる。

～『ともに咲き続ける』ために私たちは…～

1.ご利用者、ご家族のみならず地域に信頼され続けるサービスを提供します。
2.現在だけではなく、過去を活かし未来を見据えたサービスを提供します。
3.私たちだからこそできる専門的で先駆的な質の高いサービスを提供します。

【経営方針】

1.利用者・家族・地域に安全と安心を与え続けられるようサービスの質の向上に努める。
2.地域ニーズや淡路市第6期介護保険事業計画を的確に把握し、当施設だからこそ可能な福祉サービスの創出・定着に努める。
3.淡路地区医療・福祉連携モデル事業による具体策を実践し、自施設の強みを表出していくとともに淡路地区としての総合化力の発揮に努める。
4.地域への情報発信を促進し、人材開拓・確保・育成に努める。併せて淡路地区における事業団職員の適切な配置に向けた施設間調整及び継続可能なスキーム作成に努める。
5.安定した運営ができるよう介護報酬改定に応じた加算算定、職員配置等に努める。併せて継続運営を見越した適切な設備改修計画を立案、実施する。

【事業・運営計画】

1.利用者・家族・地域の方々に安全と安心を与え続けられるように、質を高めたサービスの提供、情報発信に努める

（ア）職員が主体的にサービス計画書の作成、見直しを図り、サービス担当者会議、職員会議、グループカンファレンス等を効果的に開催することでサービスの質の強化に努める

（イ）リスクマネジメントを徹底し、介護者が原因となる事故の防止を図るとともに、利用者

の状態変化に早期に気付き、対応することで病状悪化を抑制していく

（ウ）利用者・家族との信頼関係を強化する為に適時適切に説明、同意を実践する

（エ）地域ボランティアやシルバー人材サービス、福祉体験等を効果的に活用するとともに、「認知症サポーター養成講座」等の講座を開催し、地域に開かれた施設運営を図る

2．施設系サービス、在宅系サービスの各事業所機能を最大限に発揮することで、地域ニーズや淡路市第6期介護保険事業計画の把握を徹底し、新たなサービスの創出、定着に努める

（ア）特別養護老人ホームにて、支援困難な方や医療ニーズの高い方等の受け入れを積極的に検討、実践していく。併せて稼働率を意識したベッドコントロールを徹底する

（イ）認知症対応型通所介護事業所の新規開設（2015年10月予定）・事業定着を図る

（ウ）淡路市と協働の下、在宅介護支援センター事業にて見守り支援事業の継続はもとより、今後の対象者や対象地域等の拡大方法を検討、企画する

（エ）地域において最高であると評価してもらう為の基準を明確化し、適時評価、改善を図る

3．淡路地区医療・福祉連携モデル事業による具体策を実践することで、自施設の強みを表出していくとともに淡路地区としての総合化力の発揮に努める

（ア）聖隷淡路病院、在宅事業所等による医療・福祉連携モデル会議、医療・福祉連携モデル創造会議を開催し、連携モデル図の具体的な取り組み状況の把握、課題解決に努める

（イ）事業団以外の事業所・医療機関との連携方法を検討し、適時提案、実践を図る

（ウ）連携モデル図における自施設の強みを整理し役割遂行に努める。併せて新たな役割に合致した連携スキームを創出していく

4．地域への情報発信を促進し、人材開拓・確保・育成に努める。併せて淡路地区における事業団職員の適切な配置に向けた施設間調整及び継続可能なスキーム作成に努める。

（ア）該当地域内の介護力向上及び介護従事者発掘の為、同地域内の他法人施設と共同し「地域介護力向上講座」を開設する

（イ）目標参画システム、介護職テクニカルラダー、介護プロフェッショナルキャリア段位制度を活用し、職員個々が将来に向けキャリアアップを意識した目標設定を推奨する

（ウ）介護福祉士、介護支援専門員等、必要な資格取得の為の支援を行う

（エ）事業団階層別研修、喀痰吸引研修、認知症介護実践者研修、介護プロフェッショナルキャリア段位制度評価者研修等の外部研修への効果的な参加を図る

（オ）聖隷淡路病院等と連携し、横断的かつ実践的な職員研修会を企画、開催する

（カ）淡路地区における介護職、看護職等の職種毎のキャリアパスイメージを構築し、適時適切に職員の採用、異動調整等ができる仕組みを整理する

5．安定した運営ができるよう介護報酬改定に応じた加算算定、職員配置等に努める。併せて継続運営を見越した適切な設備改修計画を立案、実施する

（ア）利用者・職員等の状況を適時検証し、介護報酬改定に応じた適切な加算算定及び効率的な職員配置が行えるように業務改善を図る

（イ）オムツやリネン等の消耗備品の購入状況を評価し、適正化を図る

（ウ）外部委託業者の契約状況を評価し、適正化を図る

（エ）継続的な運営ができるよう、備品購入、設備改修の必要性を検証し、優先順位に応じた計画的な購入・改修を図る

【数値指標】

特別養護老人ホーム・通所介護・地域密着型サービス

| | 聖隷カーネーションホーム | | 聖隷カーネーションホーム デイサービスセンター | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 特養入所 | 短期入所 | 通所介護 | | |
| | 従来型 | 従来型 | 一般型 | 介護予防 | 認知症対応型 |
| 利用者定員 | 54名 | 16名 | 30名 | (30名) | 12名 |
| 利用者延数 | 19,171名 | 5,388名 | 5,407名 | 1,082名 | 973名 |
| 一日平均利用者数 | 52.4名 | 14.72名 | 17.5名 | 3.5名 | 6.4名 |
| 稼働率（%） | 97.0% | 92.0% | 70.0% | | 53.0% |
| 稼働延日数 | 366日 | 366日 | 309日 | | 152日 |
| 平均介護度 | 3.8 | 2.9 | 1.8 | — | 2.3 |
| 単価（一人一日） | 10,579円 | 10,774円 | 8,670円 | 4,059円 | 10,719円 |
| サービス活動収益（千円） | 202,819 | 58,053 | 61,757 | | |
| 職員数（常勤換算） | 31.0名 | 7.0名 | 7.4名 | | 3.5名 |

在宅介護支援事業（聖隷在宅介護支援センター淡路）

| 淡路市受託収入（千円） | 職員数（常勤換算） |
|---|---|
| 6,600千円 | 1.8名 |

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター淡路）

| 年間請求件数 | 平均単価（円） | 訪問調査 | 訪問調査 | サービス活動 | 職員数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 介護 | 介護 | 年間件数 | 単価（円） | 収益（千円） | （常勤換算） |
| 2,370件 | 14,900円 | 84件 | 4,000円 | 35,652千円 | 5.8名 |

# 聖隷ヘルパーステーション淡路

【事業・運営計画】

1．淡路市全域での積極的な活動

（ア）訪問調整（地区別）を実施し、効率的なスケジュール管理を行う

（イ）職員確保（主に登録）に努め、新規受け入れ枠を確保していく

2．職員教育の充実

（ア）中重度、認知症、障害者等へ対応できる職員の育成を行う

（イ）サービス提供責任者のスキルアップを図る

【数値指標】

| | 平均利用者数 | 月訪問件数 | 年訪問件数 | 単価(円) | サービス活動収益(千円) |
|---|---|---|---|---|---|
| 介護給付 | 115名 | 1,111件 | 13,335件 | 3,380円 | 45,356千円 |
| 予防給付 | 64名 | 330件 | 3,960件 | 3,566円 | 14,123千円 |
| 障害 | 59名 | 450件 | 5,400件 | － | 20,270千円 |
| 有償 | 5名 | 11件 | 132件 | － | 300千円 |
| 合計 | 243名 | 1,902件 | 22,824件 | － | 80,049千円 |

職員数（常勤換算）22.9名

# 聖隷訪問看護ステーション淡路

【事業・運営計画】

1．地区別事業の実施と安定

（ア）津名サテライトからの活動幅を拡大し、市内全域で質の高い看護を実施

（イ）タブレット端末等の活用で職員間の情報共有を図り、業務を効率化

2．訪問リハビリテーションの充実

（ア）作業療法士による認知症対応や理学療法士による退院後の継続リハビリテーションを推進

（イ）呼吸リハビリテーションや緩和期のリハビリテーションへの積極的介入

3．訪問看護の多機能化

（ア）特別養護老人ホーム（デイサービス・ショートステイ等）への看護師派遣を実施

（イ）医療ニーズへの早期相談対応や困難事例対応で、地域住民の安心安全を担保

【数値指標】

| 平均利用者数 | 月訪問件数 | 年訪問件数 | 単価(円) | サービス活動収益(千円) | 職員数常勤換算 |
|---|---|---|---|---|---|
| 165名 | 1,084件 | 13,016件 | 9,500円 | 109,777千円 | 14.0名 |

# 宝塚第二地区在宅複合事業（社会福祉事業）

聖隷ヘルパーステーション宝塚
聖隷逆瀬川デイサービスセンター
聖隷逆瀬川デイサービスセンター虹

【事業・運営計画】

〈聖隷ヘルパーステーション宝塚〉

1．サービスの受け入れ体制の確保

（ア）正職員の人員２名の確保

（イ）パート職員・登録パートの増員

2．職員教育の強化

（ア）喀痰吸引の１号研修に２名参加

（イ）同法人内での交換研修の積極的な実施

〈聖隷逆瀬川デイサービスセンター・聖隷逆瀬川デイサービスセンター虹〉

1．パート職員の教育システム構築

（ア）役割毎の業務マニュアルとチェックリストの作成

（イ）指導担当者を明確にし、委員会を主体に指導体制を整備

（ウ）３か月に１度、職員と面接し、理解度の確認と指導

2．事故の再発を未然に防ぐ体制作り

（ア）インシデント・アクシデント報告書の見直し（宝塚地区全体）

（イ）事故対策委員会を設置し、問題点の明確化、改善方法、評価、共有

【数値指標】

訪問介護事業（聖隷ヘルパーステーション宝塚）

| 介護給付 | | | 予防給付 | | 単価(円) | | ｻｰﾋﾞｽ活動収益（千円） | 職員数（常勤換算） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 平均利用者数 | 月間訪問件数 | 年間訪問件数 | 月間利用者 | 年間利用者 | 介護（回） | 予防（月） | | |
| 114名 | 1,281件 | 15,372件 | 99名 | 1,188名 | 3,926円 | 17,466円 | 117,094千円 | 23.3名 |

通所介護事業（聖隷逆瀬川デイサービスセンター）

| 介護給付 | | | 予防給付 | | 単価(円) | | ｻｰﾋﾞｽ活動収益（千円） | 職員数（常勤換算） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 平　均利用者数 | 月　間利用者数 | 年　間利用者数 | 月間利用者 | 年間利用者 | 介護（月） | 予防（月） | | |
| 16.6名 | 431.6名 | 5178.6名 | 56.7名 | 679.8名 | 8,400円 | 6,900円 | 72,221千円 | 15.9名 |

通所介護事業（聖隷逆瀬川デイサービスセンター虹）

| 介護給付 | | | 予防給付 | | 単価(円) | | ｻｰﾋﾞｽ活動収益（千円） | 職員数（常勤換算） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 平　均利用者数 | 月　間利用者数 | 年　間利用者数 | 月間利用者 | 年間利用者 | 介護（月） | 予防（月） | | |
| 9.1名 | 236.1名 | 2832.6名 | 0名 | 0名 | 13,400円 | 0円 | 37,957千円 | 8.2名 |

# 宝塚第二地区在宅複合事業（公益事業）

聖隷ケアプランセンター宝塚
聖隷訪問看護ステーション宝塚
逆瀬川地域包括支援センター

【事業・運営計画】

〈聖隷訪問看護ステーション宝塚〉

1．ラダーを活用した職員教育システムの構築

（ア）聖隷訪問看護ステーション山本との交流、合同研修の実施

（イ）宝塚地区リハビリテーションスタッフの連携・情報の共有化

2．聖隷訪問看護ステーション宝塚のＰＲと各居宅支援事業所との連携強化

（ア）2か月に１回の研修に各居宅支援事業所の参加を呼びかけ一緒にスキルアップを図る

3．地域住民との交流

（ア）民生委員会議や自治会会議への参加

（イ）認知症研修会の実施他、地域のボランティア団体の催しや会議への参加

〈聖隷ケアプランセンター宝塚〉

1．収支のバランスを整え、安定した経営状態を保持

（ア）上半期にパート職員１名採用し、利用者の増員、経営の黒字転換へ

2．業務の効率化及びケアプラン業務の法令順守を推進

（ア）ワイズマン業務（ＩＡ）推進による業務の効率化

（イ）業務の効率化と並行して、減算対象となる業務の堅実化、実地指導対策の強化

3．認知症及び重度利用者などをテーマとした事業所内外の人材育成

（ア）デスカンファレンスや認知症・リハビリテーションの自主勉強会を他職種間で定期的に開催

〈逆瀬川地域包括支援センター〉

1．介護予防・日常生活支援総合事業の推進

（ア）住民主体で運営されるサロンや老人会等各団体で介護予防教室の開催

（イ）地域ケア会議の開催

（ウ）法人のサービス事業所（デイサービスセンター）への情報提供と利用者紹介

2．認知症の啓発活動及び支援

（ア）権利擁護（虐待等）関連の勉強会の開催、認知症サポーター養成講座の開催

3．職場内のリスク管理(職員のスキルアップ)

（ア）サービス向上委員会の設置、利用者へのアンケートを基に業務改善

（イ）リスク管理の観点から、現行業務を確認し、問題点を明確化

【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション宝塚）

| | 平均利用者数 | 月訪問件数 | 年訪問件数 | 単価(円) | ｻｰﾋﾞｽ活動収益(千円) | 職員数(常勤換算) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 医療 | 36.8名 | 278.8件 | 3,345件 | 9,900円 | 89,338千円 | 12.0名 |
| 介護 | 75名 | 421件 | 5,052件 | 9,900円 | | |
| 予防 | 13名 | 40件 | 480件 | 9,900円 | | |

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター宝塚）

| 年間請求件数 | | 平均単価(円) | | 訪問調査年間件数 | 訪問調査単価(円) | ｻｰﾋﾞｽ活動収益(千円) | 職員数(常勤換算) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 介護 | 予防 | 介護 | 予防 | | | | |
| 3,045件 | 240件 | 16,000円 | 4,000円 | 2,472件 | 4,200円 | 59,231千円 | 14.5名 |

地域包括支援センター事業〈逆瀬川地域包括支援センター〉

| 年間請求件数 | | 平均単価(円) | | ｻｰﾋﾞｽ活動収益(千円) | 職員数(常勤換算) |
|---|---|---|---|---|---|
| 予防 | 予防（委託） | 予防 | 委託（委託） | | |
| 4,980件 | 1,920件 | 4,590円 | 4,590円 | 70,879千円 | 11.8名 |

# 北神戸地区在宅複合事業

聖隷訪問看護ステーション北神戸
聖隷ケアプランセンター北神戸

2015 年度、北神戸は医療・介護を必要とする医療依存度の高い利用者が、24 時間、安心安全に暮らせることに加え、独居や老老介護など介護力に乏しい利用者も在宅で看取りができるような体制をつくりたい。2014 年度は人員体制が確立できず、サテライト設立も視野に入れた事業拡大ができなかった。2014 年度に引き続き、まずは職員の増員・訪問看護事業規模の拡大を目指す。もとより北神戸は、神戸市北区で最初にでき規模も大きく、地域や各機関より長年にわたる信頼を得ている。訪問看護の依頼に伴いケアプランの依頼も増えている。自施設での強みを生かす活動を続けることによりブランド力の向上を目指し、在宅に加え施設などでも訪問看護の活用をアピールしていく。依頼には迅速・丁寧に受ける事ができるよう体制を強化、地域ニーズに沿った事業展開につなげていきたい。

【事業・運営計画】

1．訪問看護事業の拡大

（ア）常勤看護師２名・非常勤ケアマネージャー1 名の採用

（イ）研修計画を立て研修の参加、看護師やケアマネージャーの専門性を強化
難病・緩和ケア・精神・小児など自分の得意分野を極め、サービスの質・スキルアップにつなげ事業所の「売り」をアピールしていく

（ウ）新人オリエンテーションや新人教育のシステムを強化し、職員の離職防止に努める

（エ）地域ケア会議に参加し訪問看護の活用をアピールすることで、サービス需要の拡大に努める

（オ）神戸市北区北神地区にサテライトを設立する

2．各機関との連携強化と効率化

（ア）訪問看護モバイルの導入、特に記録や提出書類の時間短縮

（イ）関西ケアプランセンター間での相互チェックによるリスク管理・交換研修の参加

【数値指標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション北神戸）

| 平均利用者数 | 月訪問件数 | 年訪問件数 | 単価(円) | ｻｰﾋﾞｽ活動収益(千円) | 職員数(常勤換算) |
|---|---|---|---|---|---|
| 115 名 | 652 件 | 7,955 件 | 9,650 円 | 81,692 千円 | 10.6 名 |

居宅介護支援事業（ケアプランセンター北神戸）

| 年間請求件数 | | 平均単価(円) | | 訪問調査年間件数 | 訪問調査単価(円) | ｻｰﾋﾞｽ活動収益(千円) | 職員数(常勤換算) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 介護 | 予防 | 介護 | 予防 | | | | |
| 500 件 | 300 件 | 13,000 円 | 4,200 円 | ― | ― | 7,682 千円 | 1.6 名 |

# 宝塚第五地区在宅複合事業

聖隷ケアプランセンター花屋敷
聖隷訪問看護ステーション山本

宝塚第五地区は、比較的高齢化率の低い地域である。2015年度、この地域に求められる予防的な視点を持った介護介入への支援や、要介護者に限らず、精神・小児へのかかわりなど柔軟な対応で誰もがこの地域で住まうことができ、「家で最期まで暮らしたい」を支えることができるプランニング・看護ケアを提供する。

## 聖隷ケアプランセンター花屋敷

【事業・運営計画】

1．業務管理・リスク管理の強化
　（ア）ケアマネジメントプロセスの詳細なマニュアル整備と統一書式の検討
　（イ）関西地区におけるケアプランセンター事業所間での相互チェックの実施
　（ウ）ワイズマンの活用
　（エ）苦情・事故・インシデント報告書の検証方法見直し・意識づけの強化
2．特定事業所としてのケアマネージャーの質の担保
　（ア）中間オリエンテーションマニュアルの見直し
　（イ）外部・職場内研修の充実
3．新規事業への積極的参加
　（ア）東地区事業所間における情報共有・課題分析・アプローチ方法の検証
　（イ）事務所移転の検討
　（ウ）聖隷山本デイサービスセンターでの体操教室の準備
　（エ）職員の増員を図り、相談援助職を育成
4．（新）特定事業所加算Ⅱを算定できる職員体制の確立
　（ア）加算算定に必要な人員体制の整備

【数値指標】

| 年間請求件数 | | 平均単価（円） | | 訪問調査年間件数 | 年間調査単価(円) | ｻｰﾋﾞｽ活動収益（千円） | 職員数（常勤換算） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 介護 | 予防 | 介護 | 予防 | — | — | 51,875千円 | 9.2名 |
| 3,185件 | 240件 | 16,000円 | 4,000円 | | | | |

# 聖隷訪問看護ステーション山本

【事業・運営計画】

1．ラダー別に合わせた職員教育システム作り（聖隷訪問看護ステーション宝塚と合同）

（ア）合同研修の開催

（イ）ラダー別に合わせた教育・研修体系作り

（ウ）リハビリテーション部門の教育体制作り

2．東地区で実践可能な地域との関わり作り

（ア）聖隷山本デイサービスセンターの日曜開放（住民が集まりやすい場所つくり）について東地区事業所で検討・実践

（イ）町の相談室・保健室に向けての取り組み検討

（ウ）東地区での事業展開踏まえた事務所移転の検討

【数値指標】

| 平均利用者数 | 月訪問件数 | 年訪問件数 | 単価(円) | ｻｰﾋﾞｽ活動収益(千円) | 職員数(常勤換算) |
|---|---|---|---|---|---|
| 127名 | 639件 | 7,668件 | 9,766円 | 74,274千円 | 10.5名 |

# 聖隷逆瀬台デイサービスセンター

【事業・運営計画】

1．「最高のサービス」の提供

(ア)開設 20 年を迎え、建物の老朽化も著しいため、改修工事を計画的に実施

①要介護の高い利用者が快適に利用できるよう、設備面を重点に継続的な点検の実施

(イ) 新規利用者や移管ケースの方が安心して利用できるよう体制を強化

①聖隷デイサービスセンター結い、聖隷逆瀬川デイサービスセンター虹との差別化を図り、シームレスなサービスが常に提供できるように情報共有や連携を強化

②次期報酬改定を見据えた職員配置並びにサービス体制の整備

2．運営の安定化の推進

(ア)職員一人ひとりが運営面を意識し、課題を共有することで直接収入に反映

①要介護の高い方であってもトレーニングを行い、リハビリテーション加算ⅠⅡを提供することで1回あたりの利用単価の向上

(イ)重度の利用者が安心して利用できる介護技術の教育体制を構築

①月 1 回の勉強会を実施、ラダー体制の強化

(ウ)認知症高齢者のケアに評価基準を設定

①自宅で出来る評価基準を作成し、ケアの課題を利用者の家族と共有

3．地域への取り組み

(ア)地域ボランティアの要望でもある介護予防・認知症予防について、地域向けの勉強会を実施

①認知症の高齢者が安心して過ごせる環境を整えるため、地域住民と共に行う取り組みを自治会を通して協議

【数値指標】

| 介護給付 | | | 予防給付 | | 単価(円) | | ｻｰﾋﾞｽ活動収益(千円) | 職員数(常勤換算) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 平均利用者数 | 月間利用者数 | 年間利用者数 | 月間利用者 | 年間利用者 | 介護(月) | 予防(月) | | |
| 38.6 名 | 1,005 名 | 12,065 名 | 5 名 | 60 名 | 10,864 円 | 40,000 円 | 143,662 千円 | 30.8 名 |

# 聖隷山本デイサービスセンター

【事業・運営計画】

1．小規模デイサービス再編に合わせた事業運営の決定

（ア）現状の利用件数推移から、新設される地域密着型通所介護への移行を主軸に検討

（イ）要支援のサービスは、介護保険から外れた後も地域事業として継続できる方法を検討

（ウ）東地区事業所間における情報共有・課題分析・地域ニーズ模索を継続

2．予防型から要介護を中心とした事業にシフトし、経営を安定化

（ア）2014年度より介護件数の伸びが大きく、今後も要介護受け入れの方向性を継続

①要介護1・要介護2の利用者を中心とし、認知症利用者も積極的に受け入れ

②介護保険利用が初めてでも安心して通える入り口サービスとして機能を明確化

（イ）入浴設備の導入も視野に、新たな事業場所の検討

①移転できない場合は既存の施設で可能な改築も検討

（ウ）稼働率80%以上で件数獲得できるよう、稼働率のコントロール

（エ）東地区における新規事業、在宅事業の統合の検討

3．地域開放

（ア）東地区事業所で協働し、聖隷山本デイサービスセンターを地域開放の場として活用

（営業日以外の日曜日を活用できる方法を模索）

【数値指標】

| 介護給付 | | | 予防給付 | | 単価(円) | | ｻｰﾋﾞｽ活動収益（千円） | 職員数（常勤換算） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 平均利用者数 | 月間利用者数 | 年間利用者数 | 月間利用者 | 年間利用者 | 介護（月） | 予防（月） | | |
| 12.6名 | 327名 | 3,919名 | 47名 | 559名 | 9,800円 | 39,000円 | 56,435千円 | 10.6名 |

# 聖隷デイサービスセンター結い

【事業・運営計画】

1．生活行為の向上を目指したプログラムの立案と評価の実施

（ア）理学療法士を中心に生活ニーズの掘り起こし

（イ）身体状況と生活環境を把握した上で、より生活に即したプログラムを提供

2．新規利用者の獲得を図り、9月を目標に通常規模型へ変更

（ア）生活行為の向上を目指したサービスの提供を売りに新規利用者を獲得

（イ）認知症の方の対応も含め様々な疾患・障害に対応できる職員の知識の習得とスキルの向上

3．地域で行われている取り組みへの協力

（ア）ＵＲ団地内に住んでいる高齢者を中心に、団地内集会所を使用した体操教室に職員を派遣

（イ）デイサービス休業日の日曜日を月１回、時間を決めて開放

【数値指標】

| 介護給付 | | | 予防給付 | | 単価(円) | | ｻｰﾋﾞｽ活動収益（千円） | 職員数（常勤換算） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 平　均利用者数 | 月　間利用者数 | 年　間利用者数 | 月間利用者 | 年間利用者 | 介護（月） | 予防（月） | | |
| 7.4名 | 192名 | 2,302名 | 89名 | 1,068名 | 5,341円 | 29,848円 | 43,934千円 | 9.8名 |

# コミュニティケアセンター宝塚店

【事業・運営計画】

1. 利用者、ケアマネージャーに対し質の高いサービスの提供に努める事で利用者満足度を高め、利用者数の拡大を目指す
   （ア） 年間研修計画を立て、毎月勉強会を開催。また外部研修や聖隷内部研修等を通して各自、目標を持ってスキルアップを目指す
   （イ） 職員に対して居宅介護支援事業所の営業区域を明確にし、徹底的な報告・連絡・相談と提案力を意識し、居宅介護支援事業所との信頼関係を強化
   （ウ） 営業活動に時間がかけられるように事務体制の強化

【数値指標】

| 年　間<br>利用者数 | 年　間<br>貸与売上 | 年　間<br>販売売上 | 年　間<br>住改修売上 | ｻｰﾋﾞｽ活動収益 | 職員数<br>（常勤換算） |
|---|---|---|---|---|---|
| 7,405 件 | 98,484 千円 | 55,003 千円 | 14,000 千円 | 168,064 千円 | 11 名 |

# 聖隷ケアプランセンター結い

【事業・運営計画】

1．「最高のサービス」の提供

（ア）同じ地区内の聖隷ケアプランセンター宝塚との境界を明確化

①明確にエリアを分け、短時間で訪問が出来るよう距離的なメリットを活かし業務を効率化

（イ）各専門職がそれぞれの知識・技術向上のため内外の研修への参加

① 認知症高齢者へのアプローチ

② 医療依存度の高い高齢者へのアプローチ

③ 相談援助技術

（ウ）施設に来所する地域の方が 200 人/月強、相談窓口としての機能強化

①直接地域の方からの相談を受けることができるスキルの習得

2．運営の安定化の推進

（ア）ケアマネジャーを1名増員し、特定事業者加算を取得して運営を安定化

①個人の力量を見ながら担当利用者を増やし、上限 40 件を目指す

②聖隷ケアプランセンター宝塚との連携を通し、空き件数を共有し新規利用者を取りこぼさない

【数値指標】

| 平均利用者数 | 月訪問件数 | 年訪問件数 | 単価（円） | ｻｰﾋﾞｽ活動収益（千円） | 職員数（常勤換算） |
|---|---|---|---|---|---|
| 102.5 名 | 102.5 件 | 1,230 件 | 15,000 円 | 18,702 千円 | 4.4 名 |